



第 84 卷 第 2 号
年 4 回 発 行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田 3-1-5-2
TEL 03-3387-5567
<http://www.jiseikai.jp>
振替口座 ベタニアの家
00170-6-15317

二〇二五年から二〇四〇年へ

薄井 康紀

二〇二五年度を迎えました。

社会保障の世界では団塊の世代が全員後期高齢者となる二〇二五年に向けて地域包括ケアの推進や地域医療構想などの取組みが進められてきましたが、そのターゲットの年です。目標どおりとはとても言えませんが、増大する保健・医療・福祉のニーズに、一定の対応はなされてきたように思います。

そして、数年前から言われてきたのが、高齢者の数がピークを迎える二〇四〇年ごろに向けての取組みです。福祉の施設・事業に携わっていると自らが直接関わっている分野・事柄に目が行きがちですが、社会経済全般、社会保障全体の状況も理解しておくことが望まれます。

今更言うまでもない少子高齢化、

昨年二〇二四年の出生数（日本における日本人）は七十万人を割り込んだと見込まれてニュースになっていきますが、この子供たちが大人になるのはずっと先、出生率の回復を目指してはいますが即効性はありません。

二〇四〇年に向けて確実に分かっていることは、医療・介護のニーズが高まる高齢者の増加と、生産年齢人口の大幅な減少です。

これにどう向き合うか。

社会保障はそれを支える経済社会と無関係ではありませんから、日本の社会の活力の維持向上は不可欠です。また、フレイル予防などニーズを少しでも減らす取組みや、地域包括ケア、地域共生社会の推進によってニーズに的確に対応する努力が求められます。慈生会の各施設・事業におい

ても、このことを意識して、それぞれが地域社会の中でできることに取り組んでいけたらと考えます。

一方で労働力の制約への対応も待たなしです。高齢者や女性を含めた多様な働き方の推進による人材の確保が必要ですし、外国人材を活かしていくことも否応なく求められるでしょう。業務の性格から限界はありますが、テクノロジーの活用等で限られたマンパワーを活かしていくことも求められます。これまで福祉・医療の分野で働く人は右肩上がりが増えてきましたが、ここにきて状況が変わってきました。今や同業種間だけでなく、社会全体で人材の合い合戦となっています。

このような状況の下で自分たちだけよければいいということではありませんが、慈生会としては、この仕事に情熱を持った方が入職して定着し、生きがいを持って働いていただけるようにしていかなければなりません。働き方改革がトレンドな言葉になっていますが、働きやすい職場環境づくりが極めて重要となっています。

福祉も医療も公的財源によってるので制約はありますが、法人の経営サイドには、ご利用者の方々のニーズに答えながら、制度をうまく活用して可能な処遇改善を図る努力が求められていると思います。

他方で働きやすい職場環境づくりは、管理者だけでなく職員の皆さんが必要で、日々の仕事に忙しくされていると思いますが、職種間、職員間で相互理解のもとにコミュニケーションの充実を図っていくこと、最初は未熟でも慈生会の未来を担う人材を育てること、そういったことを心がけたいものです。そのことが、職員皆のライフ・ワーク・バランスの取れた充実した暮らしに繋がると

思います。

ベタニアの家は二〇四〇年に至る途中の二〇三〇年に百周年を迎えます。

フロッジャク神父様と先輩方が築いてこられた慈しみの心を高く掲げて、これからも歩んでいけたらと思います。

(慈生会常務理事)

閉園に寄せて

堀田 しのぶ

東星学園幼稚園は一九三八年に東星尋常小学校に併設する形でフロジャク神父様がお作りになりました。一九四〇年に認可を受け開園。八五年に渡り清瀬の地で幼児教育を行い三六五四名の卒園生を送り出しました。私が入職した二〇〇六年頃から園児は百名を切る様になり、以後年々減少し二〇二二年二月に園児募集停止が決まり二〇二五年三月に閉園となりました。二〇二二年に入園した八名が最後の年の在籍園児でした。

東星学園幼稚園は、「自立した子どもを育てる」ことを大切に教育を行なってきました。子どもが自分で取捨選択する力、考えて行動する力をつけて遅くしなやかに生きていくことが願いです。自分で選び行動するためには「やりたい」という意欲がなければ始まりません。最後の年は特にこの「やりたい！」に拘って少人数の機動力を最大限に生かしてきました。何をすることも八人でよく話し合いました。最初は遠慮したり、人任せにしたりすることもあり

ましたが、お泊まり会(初めて最後の行事でした)、遠足(初めて電車とバスを乗り継いで行きました)、ずっと続けてきた畑の活動(十五種類以上の野菜を育てました)などを共に経験することで八人の兄弟姉妹になり、気づけば何をすることも声を掛け合い、助け合い、補い合う姿が見えるようになりました。毎日八人とは思えない元気な声で歌い、掃除などの作業の時も誰かからともなく鼻歌が始まって気づけば合唱になり、ちょっと大変なこと荷物を背負って長い距離を歩くとか、畑の草取りをするとか)もそんな調子でみんなで乗り越えてきました。「やりたい！」と思ったことを自分達の力で形にする経験は確実に子ども達の自立への土台を強いものにしていきました。

フロジャク神父様がお作りくださった幼稚園を閉じることになり無念ではありませんが、最後まで「また明日も来たい！」と思える子どもの大切な場所であり続けたことに誇りを持ち、巣立つ子ども達がここで築いた土台の上に種を蒔き大きく育つことを確信しながらお祈りしています。これからも子ども達の上に神さまの祝福がありますように。

(東星学園幼稚園 園長)

フルールからのお知らせ
是非ご注文ください

植竹 裕三

多機能型事業所フルールはおかげさまで開所して3年目を迎えました。焼き菓子作りから販売までを中心に皆で作業を分担して取り組んでいます。

お菓子作りでは、初めてお菓子を作る方ばかりでしたので器具の取り扱いなど覚えるのに時間がかかりましたが、少しずつ慣れて、今は工程のほとんどを一人でできる方もいらっしゃいます。一人ひとりのできることを、得意なことを生かして生産量をお上げる努力をしています。また、お菓子作り以外では、チラシづくり、ラベル張り、資材作り、シヨップや外部イベントでの販売に携わる方々と共にフルールのお菓子を全員で盛り上げていただいています。

フルールのお菓子作りのモットーは、製造工程のどこかに利用者さんの手が入るといことです。また、保存料等を使わずに手作りすることです。

クッキー(賞味期限1か月程度)はご注文にすぐお応えできるように常に10種類以上のラインナップで切

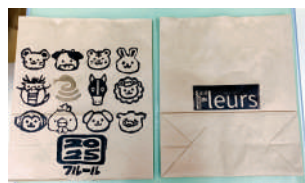
らさずに生産しています。クッキー以外で人気なのは、パウンドケーキです。賞味期限が長めで(夏・7/10日、冬・10/14日)贈り物にもちょうどよいと喜ばれています。また、シフォンケーキ、カヌレ、スコロンも人気ですが、賞味期限が短い(当日/2日)ので、お早めにお召し上がりいただきたい商品です。今は電話、FAX、メールでの注文となっております。焼き菓子のラインナップをチラシにしておりませんが、インターネット経由での注文も受けられるようホームページを調整中です。

是非ご注文ください。

(多機能型事業所フルール管理者)



焼き菓子とジャム



手作りパッケージ

TEL : 0287-74-5737
FAX : 0287-74-6402
E-mail : fleurs@jiseikai.jp

「養護老人ホームの歩み」

富田 浩

この原稿の依頼を受け、瑠璃草第八一四号を読み返しながら振り返ってみました。私は介護保険施設からの異動でしたが、実際に養護老人ホームの方々に対する施設の使命は、「自立した生活を営み、社会的な活動に参加するために必要な援助を行うこと」であり、「その人らしさを尊重したケア」を現場で実践すると言う点においては、介護保険施設と概ね同じ目的であることが分かりました。

平成十二年四月一日に介護保険法が施行されましたが、平成十八年三月三十一日までの間、養護老人ホームの入所者は、介護保険サービスは一切利用する事ができないにも拘らず、介護保険料が徴収されるのみでした。平成十八年四月一日からは、養護老人ホームも介護保険法で居宅扱いとなり、住宅改修以外のサービスが受けられるようになりました。

このような違いは支援する現場の職員の側もあり、介護保険施設の介護職員の処遇が改善される一方で、自治体の財源で運営される養護老人ホームの職員は、処遇改善の対象から外されていることが続いており、改善を求める要望書等を養護分科会

の方で取りまとめられています。

聖家族ホームを担い、ご挨拶廻りをする中で気付いたことは、全ての自治体ではありませんが、養護老人ホーム(措置)を知らぬまま担当している方もいたので、養護老人ホームの宣伝も兼ねて養護老人ホームの詳細をまとめた案内書を作成し、自治体と関係の再構築を図りました。

実際には自分用としても活用することができたので(笑)、ご挨拶廻りを通して字びを得ることができました。

これからも、職業としてかわる人だけを大切にすることはなく、自分のそばにいる人にも深い思いやりと共感を示しながら、相手の弱さや過ちも受け入れ許すことで、短期的な感情ではなく、ポジティブに長期的な関係性の構築を図り、自己の成長に繋げていきます。

大人になる程、人への興味や人となりを聞きたいと言う表現は少なくなると感じますが、私たちの人の喜びを創る仕事は、ホスピタリティの高い対応が求められます。

ご利用者が「ここで暮らせて本当に良かった」と思うのはどんな施設なのか、また、職員が「ここで働いて本当に良かった」と思うのは、どんな職場なのかを最終的なゴールとして、隣人に寄り添いながら安定したサービスの提供に努めて参ります。

(聖家族ホーム 施設長)

地域と共に…

水谷 和幸

ベタニア・デイ・ホームは昭和六〇年中野区委託事業として区内初、また全国の先駆けの事業として始まりました。最初はベタニアホームに入居されている方と共有の場所での認知症のある高齢者を家庭では出来ないグループ活動により一人ひとりが生き生きとした生活を送っていただき、少しでも長く家族と共に地域で暮らし続ける事を目的として立ち上げました。

現在定員十二名で地域密着型の認知症対応型通所介護として開設当初と変わらぬ思いで個々のニーズを引き出し利用者本人はもとよりご家族の為に頼られるデイ・ホームになれるように努力を続けています。

今後三人に一人が高齢者になっていくと言われており、さらに八十五歳以上の高齢者の四人に一人は認知症であるとされる日本でその高齢者の方が安心して自宅で暮らすことが出



作品 Wall Art

(ベタニア・デイ・ホーム 管理者)



作品 絵手紙



手作りゲーム

来るように私たちベタニア・デイ・ホーム職員全員が出来る限りのサポートをして行きたいと思っています。少し固い話になってしまいました。が、ベタニア・デイ・ホームは職員、お部屋ともに明るく利用者の方も毎日笑顔で過ごしていただいております。体操もカラオケの機械を使って毎月新しいプログラムを組んでいます。レクリエーションも豊富で定期的に職員がゲームを考えてきたりしています。

季節ごとのイベントも行っており皆さん楽しまれています。これからも地域に根付いた温かい介護で利用者、ご家族共に必要とされるデイサービスを目指して精進してまいります。

未来の子どもたちからの
預かりもの
種まきシリーズ⑬
ベトレヘムの園病院

1 貧困をなくそう
3 すべての人に健康と福祉

今回はベトレヘムの園病院におけるSDGsの取組の中核を成す「無料低額診療事業」についてお話しします。全国にある医療機関の数はおよそ18万施設、このうち経済的に困窮している方に「無料」または「低額」な料金で医療を提供することに取り組んでいる医療機関はわずか700施設、構成比で0.4%しかありません。

医療機関ですから、SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」掲げる医療機関は数多くありますが、同時に目標1「貧困をなくそう」に取り組む医療機関はほとんどないのが実情です。

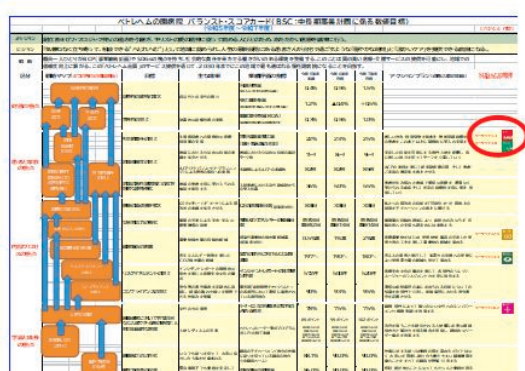
私たちはこのSDGsの目標3と目標1は不可分のものと考え、BSC(中期事業計画に係る数値目標)に組み込み、その達成度を測定、評価し、ホームページを通じて内外のステークホルダー(患者・職員・提携医療・福祉施設等)と共有していきます。

ちなみに当院の令和5年度の全診療実績のうち、この無料低額診療が占める割合は22%でした。経済的な格差がなかなか改善されない今の日本社会、特に人生の最終段階にある高齢者の方々が経済的な理由で

尊厳を失うことがないよう、医療のチカラで弱い立場にある方々を支えることはベトレヘムの園病院の大切な役割だと考えます。

この事業にどれだけベトレヘムの園病院が力を注いでいるかは、3人のソーシャルワーカーの目の輝きを見て頂ければわかります。経済的に困窮しながらも自分の親族に少しでも良い医療を受けさせてあげたいと当院の門を叩いた家族の切なる想いに、いつも笑顔で「ようこそベトレヘムへ!」と応える明るい声が今日も病院のロビーに響きます。

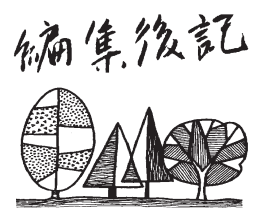
(左図) BSC×SDGsの全体像



ベトレヘムのSDGsはコチラを

ベトレヘムの園病院事務部長 菊池 誠

今年(2025年)の冬は例年になく寒く、春が待ち遠しい感じでした。たぶん今頃は、桜も散りかけているのでは・・・。そして、ベタニアホーム、ケアハウス「慈しみの家」は新たな職員体制で新年度を迎えていると思います。これからの超高齢者社会の中で、地域により信頼される施設になること



計 報

シスターマルガリタ 松本 圭世

一九四二年生 一月十八日 立誓願
一九七三年生 二月十一日 立誓願
二〇二五年生 二月二日 立誓願

シスターイダ 野村 エツ

一九二二年生 一月五日 立誓願
一九六六年生 一月十七日 立誓願
二〇二五年生 一月十九日 立誓願

ベタニア修道女会

「何のために 生まれて 何をすて生きるのか。答えられないなんて そんなのは いやだ!」
年度初め、さあ、熱い心燃やして、ほほえんで行きましょう。共に生きる人々のもとへ。(Sr中野 利恵)

毎年、会の保護の聖人聖女ベルナデッタにちなんでベルナデッタ祭を行っていただきます。今回、皆が事前練習してきた歌の一つが「アンパンマンマーチ」でした。子どもたちが大好きなアンパンマンですが、ご存知のように昔子どもだった大人にも、やなせたかしさんの歌詞は響きますね。

最近、職場の様々な方々と一緒に、趣味の時間を楽しんでいます。職場とは違う環境で共に時間を過ごしていると、お互いに「そんな一面があったんですね、意外だなあ」という場面が多々あります。職場とはまた違う姿を少しずつ知り合っていく。私の職場マ・メゾンとは「私の家」という意味です。同じ家で長い時間共に過ごす仲間同士。お互いの新たな面を知ることが出来る心地よい時間を、今年度も大切にしていきたいと思えます。(杉山 智和)

令和六年度も、子どもたちの活躍の年でした。施設対抗のドッジボール大会から始まり女兒バレーボール大会、サッカー大会、個人では高校生が陸上競技で全国大会に出場しました。スポーツに限らず子どもたちが頑張っている姿は輝いています。今年度も子どもたちの輝いている姿を楽しみにしています。(関 広宣)

を心から期待しております。皆様今後のご活躍とご健康をお祈りしております。(中村 英男)